

## 高知県不登校児童生徒の多様な教育機会確保に関する協議会（第2回）の主な意見について

## 1. 不登校児童生徒への状況別の支援及び県として今後充実させていく支援策について

- 子どもたちの状況を便宜的に分け、現在どのような「居場所、学びの場所」、「主な支援内容」が行われているか等を整理した資料4-1からは、特に③「自宅を出られるが、学校へ登校することはできない」、④「自宅をでることができない」、⑤「高校進学したが、中途退学した」の子どもたち、保護者・家庭に対しての支援を充実させる必要性が見えてくる。そこで、オンラインサポートや安心できる居場所の提供、個に応じた学習支援、社会自立に向けた支援等の充実が考えられる。特にオンラインサポートを中核とする拠点として心の教育センターが考えられる。

## ※高知県心の教育センターに対する期待・役割・機能に関する協議

- 心の教育センターが教育支援センターや各地教委の支援センターとつながることも必要。学校としては、若年教員が増え、見立てができないまま不登校への対応をやっている現状もあり、心の教育センターの指導主事が自身の経験を踏まえ、校内研修等で学校に啓発することも大切ではないだろうか。学校全体を支えていくサポート体制を作らねば、心の教育センターへオンラインだけに丸投げの状態にならないかということも懸念される。また、心の教育センターに独立した形で色々な権限を持たせてはどうか。
- 心の教育センターの存在については周知されているが、実際にどのような支援が行われているかは案外知られていないのではないかと。以前、保護者の方に質問してみたところ、心の教育センターを学校関連の施設と捉え、個人的に利用できないと思っている方が多かった。民間施設（フリースクール等）と心の教育センター等が連携し、不登校支援の研究を定期的に進めていくことができないか。心の教育センターと、民間施設を含む不登校に関する関係機関の一覧を、ホームページなどで提示していただくと、縦のつながりと横のつながりが明確になるとともに、必要とする保護者が効果的に活用できるようになるのではないだろうか。
- 高知県の不登校施策の強みは市町村に教育支援センターが多い点ではないだろうか。そこで、心の教育センターのポジショニングを考えると県内全体を見渡す司令塔としての役割が考えられる。ただ、心の教育センターのホームページからは何をやっているかが分かりづらい。不登校の保護者等、ネットで調べる方が多いため、分かりやすいホームページが望まれる。  
また、オンライン支援で自治体等と関わっているが、半数はうまくいっていない。例えば、オンライン支援が適すると思われる生徒に対しても、実際にその生徒にオンライン支援のことが伝わるまで時間がかかる。また、オンライン支援には家庭の養育力や通信環境も影響する。そこで、オンライン支援をする際、誰が接続するか等、どういう役割分担をするのか検討が不可欠。

- 市の教育委員会全体で不登校に対する取組をしている。昨年度から対象の子どもに対し、どういうステージにいるからどういう手立てが必要ということを明確に区分けし、取り組んでいる。また、優れた取組をしている学校の取組を冊子にまとめ、市の不登校対応マニュアルとしている。

学校に通うことができていない子どもへの対応や家庭状況が厳しい子どもへの支援について、何とかオンラインサポートができないかと考えていたところである。学力支援もできるプログラムがあると、登録した子どもがステップアップしていけるような学習支援ができるのではないか。

カウンセリングも対面のみならず、オンラインも導入していただけるとありがたい。また、校内支援会へのサポート事業等もオンラインの可能性があるのでないだろうか。さらに、若者サポートステーションで高校生の処遇に困っており、そのサポートを明確にしていけば高校生もありがたいのではないだろうか。

- 隠れ不登校は多く、発達段階に合わせて対応しなければならない。心の教育センターは現状でも本当によく頑張っていると思うが、もし可能なら2つ提案したい。

まず、対教師支援。主な支援者として学級担任が最後まで続くため、フロントラインにいる教師を支える仕組みづくりを重点的にしていただけるとありがたい。教師と子どもの関係性、教師と子ども・保護者との関係性にしんどくなっている教師への巡回カウンセリングのようなものをアウトリーチでやっていただくと多くの教師が助かるのではないか。

次に、保護者への啓発。心の教育センターが特化して保護者向けの動画を作成し、2、3分程度のものをいくつか挙げていくのはどうだろうか。

- 現在心の教育センターは時代の要請もあり、教育相談に重点が置かれ、相談体制が充実していると感じる。また、子どもたちの居場所や保護者支援としての役割も果たしているが、以前「やまももの会」という保護者の会の中で「近くないから来られる」と述べた保護者の方もいらっしまった。オンライン活用も含め、色々な形が考えられ、その点が充実するとよいのではないか。

また、現在も教育支援センターは心の教育センターから訪問及び、連絡協議会等で支えていただいているが、オンラインの活用となるとオンラインにつなぐための誰かが必要となる。その点も含め、具体的な連携について相談する必要があると感じている。

- 心の教育センターについて、近年福祉の充実も図られ、スクールソーシャルワーカーの専門性を生かした相談支援に進展しているように感じる。心の教育センターが、専門職者の支援に重点を持っていく取組ができるのが心の教育センターの大きな柱の一つではないだろうか。

また、東西に広がる高知県の地理上の特徴を生かした活動がなされているが、それが課題になってくる。その意味でアウトリーチ、オンライン支援がその代替になる取組になるのではないか。ただ、オンライン支援では、事前準備を丁寧にすることや、その限界をよく知る必要がある。

## 2. まとめ

※県として今後充実させていく支援策（オンラインサポート）について

- 心の教育センターが県内の不登校対策、子どもたちに対する教育保障の中核になる必要があるのではないか。
  
- 心の教育センターが独立した中核的組織となり、地教委が持っているセンターも含めたハブ機能を持った中核施設（人・物・情報が集約）になる必要があるのではないか。
  
- 中核となる施設には、人材育成機能（対教師支援機能含む）及び、データバンクとして情報の収集、集約、分析、提供の機能も求められるだろう。そして、データに基づく研究機能も必要。  
また、機能拡張にはオンラインサポート機能も求められる。事業実施に際しても、対学校・対教師・対自治体・対保護者・対子どものオンラインでの事業をやっていく。そのためには、コンテンツ開発や研修資源の開発が不可欠だろう。  
さらに、オンラインの接続支援も事業として立ち上げる必要が生じる規模のものになるだろう。
  
- 連携支援について、従来から対面で行われているものも必要であり、オンラインの限界も踏まえた連携が求められる。
  
- 広報やホームページも大切で、どのような支援が行われているかが理解でき、活用しやすくなる工夫も重要となるだろう。